

不登校児童生徒の学習支援と フリースクールとの連携事業

報告書

令和8年3月31日

NPO 法人千葉こども家庭支援センター

はじめに

この委託事業は、フリースクール等における不登校児童生徒の学習支援について、インターネットを活用した学習支援や、実技や体験活動による多角的な観点の学習支援、社会的自立に向けた進路学習の支援を行うとともに学校・保護者との連携について、学校及び保護者との望ましい連携を実現することをねらいとしている。フリースクールペガサスでは、今年度この事業の委託を受けて上記のねらいを達成できるように2名の教員経験者と1名の公認心理師を中心に運営に取り組んできた。

学習支援の成果を表す尺度は様々あるとは思いますが、当フリースクールの方針でもある「義務教育段階で必要とされる学習内容を学校で使っている教科書に沿って指導する」という考え方のもとで、今は学校へは行けないが、もし学校へ行こうとしたときに学習面での遅れが少しでもないようにしたいとの思いや中学校を卒業後は高等学校へ進学したいという希望を持っている子どもたちの願いがどれだけ叶ったかを一つの尺度として考えてみると、今年度は千葉市の子ども達だけに限って見ても5人の子どもが学校へ通うことができるようになった。また、中学3年生は2人いたが全員が希望する通信制の高等学校へ進学することができた。

さらに、入会前の面談を含め保護者との面談や相談も希望する保護者と多く行うことができ、日ごろ心配に思っていることへ一緒に向き合うことで保護者も安心して教室に通わせることができたと考えている。

加えて、令和6年8月には学校教育法施行規則の一部改正が行われ「義務教育段階の不登校児童生徒について成績評価を行うにあたっては、文部科学大臣が定める要件の下で、不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果を考慮することができる」ことが規定された。これは、学校との連携に非常に重要な関連をもつものであるため、フリースクールに通う子どもが在籍する学校へのアンケート調査を行った。

フリースクールは公教育と違いその設置基準が定められているわけではないので、運営者自らが安全で安心して通うことのできる教室環境を提供することに注意を払う必要がある。

当フリースクールでは教室への通学や教室内でのけがや備品等の破損などに備え全員が入会時より保険に加入している。また、教室の入室、退室は保護者のもとにリアルタイムでメールで送られるように入退管理システムを導入するなど、安全や安心面での配慮を行っている。

○ 教室環境の整備

子どもたちが教室に来る前に教室の机、エレベータのボタン、入り口のドアノブ、トイレなどは毎朝アルコールで消毒をしている。また、放課後はパソコンのキーボー

ドや机、いすのアルコール消毒を行っている。教室の窓を開口して空気の流れを作るような環境となるよう注意した。

学校の教室と比べ狭いため、室内の空気を少しでも清潔に保つために加湿機能の付いた空気清浄機を設置している。また、コロナについては第5類の感染症になったもののいまだに発症事例が多く報告されていることから、席と席との間は十分な距離をとるように心がけ、向かい合いの机と机の間には高めのパーテーションを設けるなどを行っている。

○ 子どもたちの健康管理

子どもたちは教室に来る前に自宅で検温や体調の観察をして、昨年度同様に「健康観察チェック」用紙に記録して毎日提出することにした。また、もし検温を忘れた子どもがいた場合は、非接触型体温計を使って検温し体温の確認をした。

入室の際には、全員薬用のハンドウォッシュで手洗いをしてペーパータオルで手をふいて席に着くという一連の流れを定着させている。

健康観察チェック 1月(平熱 °C) 名前

月日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
体 調	朝の体温	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C
	咳				△								△			
	のどの痛み															
	鼻水					△								△		
	吐き気															
	下痢					△								△		
	だるさ															
	その他													△		
家族の発熱																
保護者サイン																
ベガササイン																

※裏へ

※発熱がある場合や1つでも項目に○がある場合はベガサスへの通達はお控えいただくようお願いします。

1. インターネットを活用した学習について

(1) 指導計画の活用について

文部科学省の学習指導要領には子どもたちの発達段階に応じた標準的な学習内容が示されており、その内容に沿って各学校では指導計画を立て学習指導をしている。千葉市には小中学校とも指導計画が示されており、千葉市の小中学校に通う子どもたちは基本的にはその指導計画に沿って学習を進めている。しかし、フリースクールの場合は、学校へ通えなかった期間が個々に違うため一律に学習を進めていくことは難しい。そこで、一つの指標として指導計画に対応した学習計画は作るが、どこから始めるかやどこまで進むかについては個々の学習状況に応じて個別に組み立てていくことにした。

科目	単元名	頁数	学習日
国語	18-17620	【国語】 国語の基礎	18020
	18-17621	【国語】 国語の基礎	18021
	18-17622	【国語】 国語の基礎	18022
	18-17623	【国語】 国語の基礎	18023
	18-17624	【国語】 国語の基礎	18024
	18-17625	【国語】 国語の基礎	18025
	18-17626	【国語】 国語の基礎	18026
	18-17627	【国語】 国語の基礎	18027
	18-17628	【国語】 国語の基礎	18028
	18-17629	【国語】 国語の基礎	18029
算数	18-17630	【算数】 算数の基礎	18030
	18-17631	【算数】 算数の基礎	18031
	18-17632	【算数】 算数の基礎	18032
	18-17633	【算数】 算数の基礎	18033
	18-17634	【算数】 算数の基礎	18034
	18-17635	【算数】 算数の基礎	18035
	18-17636	【算数】 算数の基礎	18036
	18-17637	【算数】 算数の基礎	18037
	18-17638	【算数】 算数の基礎	18038
	18-17639	【算数】 算数の基礎	18039

実際に使っている学習計画

(2) 使用した学習支援ソフト

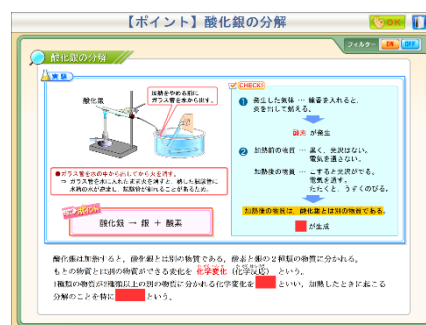
主教材として使用した学習ソフトはインターネットを活用した学習のための学習支援ソフト「天神」である。そして、補助材として学習内容を要約した「ランドセル」「デジタルスタディ」「英検〇級」「漢検〇級」などを使用した。

◎インターネット接続型ソフト

「天神」 - 株式会社タオー

このソフトの大きな特徴は以下の通りである。

- ① すべての教科書に準拠しており、特に著作権のため引用の少ない国語でもほとんどの内容を扱っている。
- ② 教科書は市町村別に選択できるので、学年をさかのぼった場合に転校してきた子どもでもその年度に使用していた教科書に合わせて学習できる。
- ③ 小中学校を合わせて 2,000 本以上のアニメによる授業映像により学習内容の解説を見る「ビデオ学習」、問題と解説を重視した「単元学習」、教科書の目次ごともしくは複数の目次を組み合わせてテストを生成する「テスト学習」などの学習パターンを自由に選べ、個に応じた学習形態を選ぶことができる。
- ④ 学習のまとめごとによりまとめプリントが用意されており、付箋をめくるようにして内容を確認していくことができる。
- ⑤ 学習を自動判定し子どもごとに最適な問題を出題する。不正解の場合はヒントを見ることもできる。
- ⑥ 不正解問題に対しては、正解するまで同じ傾向の問題が出題される。しかし、正答率が悪い場合には、問題内容を簡単な内容に変更するかどうかを選択できる。



天神の学習画面例

- ⑦ それぞれの子どもの評価を領域別、観点別に確認することができ、保護者面談の際に資料として子どもの学習歴を Excel 表にしてプリントすることができる。



(3) 学習支援ソフトの効果

指導計画の項で触れたが、フリースクールに通う

天神の学習歴確認画面例

子どもたちは学校を休んでいた期間が様々であることから、同じ学年の子どもであっても学習歴は個々違いがある。こうした子どもにとっては、パソコン学習は一人一人が自らのペースで進めることができ、個別の学習がしやすい。

そこで、学習の進め方の枠組みを決め、このパソコン教材の特性を生かして、子ども一人一人の進み具合を見ながら学習を進めることで、学習効果が上がった。

学習の基本的な枠組みは次のようにして学習を進めた。

- ① 千葉市の指導計画に沿った学習時期が表記されている各教科の年間学習内容計画書を子どもに渡す。
- ② インターネット接続型ソフトの小単元のはじめにある 5 分から 10 分程度の映像授業を見て学習する。
- ③ 小単元のポイント整理の画面に移り、抜けている言葉を補いながら学習内容の確認をする。
- ②と③は、子どもによっては先に③の画面をプリントアウトして、そのプリントを見ながら映像授業を見ることで、学習内容を理解しやすい場合もあった。
- ④ 学習した内容を映像授業やまとめプリントを使ってノートにまとめる。図表の多いプリントに直接書き込む子どももいる。
- ⑤ 小單元ごとに用意された振り返り問題と練習問題のツーステップで問題を解く。間違えたところは、繰り返し解き、合格点を目指す。また、わからないところや問題を間違えて困っているところがある子どもには机間指導している学習支援者が理解ができるまで解説をする。
- ⑥ ここまでで 1 つの学習のまとめりとなる。進捗や理解の様子にもよるが、この繰り返しをして、一度に 2 つの小單元を目安に進める。
- ⑦ 他の教科についても同じようにして進める。1 日の学習では 2 教科程度を目安に進めることにしているが、中には 1 つの小單元を 4 ないし 5 教科進めている子どももいる。
- ⑧ 中学生は単元のまとめりが終わった後、学校で購入している「学習ワーク」を使って学習のまとめをする。また、小学生は学校から渡されたワークテストをする子どももいる。

概ねこのような進め方を繰り返して行っていくことにより、学習のリズムができ、自ら進んで学習に取り組もうとする様子が見られるようになり、わからない

ところは質問するということもできるようになった。

また、繰り返し学習することで今までより学習への理解が深まり、学習する量が自然と増える傾向にあるには昨年度と同様である。

2. 実技や体験活動を取り入れた学習について

実技については教材が豊富にあるわけではないので個別または少人数での活動にせざるを得ない。昨年度設置したパーテーションで区切った個室で学習支援者とマンツーマンでの実験や製作活動を行った。

① 理科実験

理科の学習は実際に器具を使って実験したりすることが必要である。人との関わりが苦手な子どももいるが、多くの子どもは実験に興味深そうに取り組んでいる。学習支援者と1対1で活動ができた。

○ 顕微鏡を使っての観察

子どもたちは実験観察の器具に触れる機会も少ない。小学生から中学生までの子どもたち一人一人に顕微鏡の部位の名称、レンズを入れ替えたり、プレパラートを観察したりした。プレパラートの多くは市販のものではあるが、見たことのないミクロの世界を楽しんだ。

○ 酸性・アルカリ性の水溶液を使った実験

身近な酸性やアルカリ性の水溶液の液性をリトマス試験紙を使って調べる実験を行った。中学生は酸性の水溶液と金属板を使って簡単な電池を作り、流れる電流の大きさをテスターを使って調べたり、発光ダイオードを点灯させて確認したりした。

○ 上皿天びんを使っての計量

基本的な上皿天びんの使い方を学習した。未知の重さを計るときと決められた重さを計り取るときとでは分銅を乗せる側に違いがあることを学習した。

② 科学館でのプラネタリウムの見学

千葉県科学館のプラネタリウムを見学した。

季節の星空に関する生解説での番組を見る。見学後は、通路に置いてある千葉県郷土博物館にあった昔の光学式プラネタリウム投影機と科学館が開館したときに導入したデジタル式のプラネタリウム投影機について簡単に解説をした。



個別の理科実験の様子



③ 陶芸体験

市内で陶芸教室を開いている専門の先生に来ていただき、手ひねりによる茶碗やカップ、お皿などを一人1作品仕上げた。陶芸は土粘土を捏ねるという普段では体験できない手の感触があり、どの子も一生懸命に作品を仕上げていた。保護者の参加も自由で親子で楽しむ家庭もあった。また、普段の学習では会話がほとんどないが、友達の作品を見合うこともできた。7月に製作を行い、夏休み明けの9月に焼き上がった作品が手元に届いた。



④ 折紙体験

ペガサスには1枚の折紙から作った昆虫や恐竜などの作品が飾られている。これは折紙が得意な方から贈られた作品で、その方に小中学生でもできそうな作品（恐竜や犬、花など）の作り方を教わった。



⑤ プログラム体験

プログラミングは学校での学習の中にも取り入れられてきているのでパソコンでの学習の中にも取り上げられているが、そのほかに実際にプログラミングを体験し、自らが作ったプログラムでロボットを動かすという体験を行った。

千葉県科学館の協力をいただき、自動車型のロボットにタブレットを使い命令ブロックを組み合わせてプログラムを作る。内容は簡単だが、その命令の順番が違っただけで自動車は全く違う動きをしたり、全く動かなかったりする。



はじめにロボットについている4つのセンサーの仕組みを学習してから、単発の命令を自動車に伝達する。動きの命令はいろいろあるがどれも単純で「タイヤ〇回転前進する」「右回りで〇度まがる」など、動作の一部分を切り取ったような命令になっている。

命令の仕組みが分かったところで、いくつかの命令を組み合わせて一連の動きをするようにタブレット



上でプログラムを組み立て、その命令をロボットに伝達する。

子ども達は、それぞれが思い描いたような動きに近づけようと命令を何度も作り変えていた。動きは同じでも命令文が全く違うことがよくある。正解が1つではないので独自の方法を考える子どももいた。

⑥ ボランティア活動

教室の前にある公園に出て「ごみ拾いボランティア活動」を行った。それぞれが使い捨ての手袋をつけてレジ袋に公園で見つけたごみを集めた。短い時間ではあったが、たばこの吸い殻や瓶などのごみがたくさん集まった。



3. 進路学習支援、自立支援について

今年度もペガサスに通った子どもの保護者を始め、見学に来たり、相談だけに訪れたりした保護者も合わせると数多くの相談があった。特にフリースクールに通って来る子どもたちは様々な思いを抱えている場合が多いので、公認心理師のような専門の心理職に相談できることが自立支援に大きな役割を果たしている。相談できる職員がいることが「安心」につながり希望を持って通えることにつながっている。

保護者との面談の機会は夏休み前に設定しているが、日ごろ仕事をしていてなかなか学校やフリースクールに足を運べない保護者とはメールによる相談も継続的に行った。

4. 望ましい学校・保護者との連携の在り方について

(1) 学校との連携

学校との連携を図るために以下のようなことを行った。

① 入会時の連絡

入会に当たっては事前に保護者がフリースクールに通うことを学校に伝えることで、学校と保護者、フリースクールの信頼関係を損なわないよう配慮した。

入会後はフリースクールに通うことを管理職に連絡し、日常の生活の中で学校に伝えるべきことがある場合は電話やメールをもって連絡をすること、出席の扱いのお願い、必要に応じて通学定期（実習用定期）発行証明のお願いをした。

② 月末学習報告

教室に通ってきた月日、入室時間、退室時間、学習活動の内容、備考欄にカウンセラーが気づいたことなどを、記録し、毎月末の出席統計に間に合うように在籍校にメールにより報告を行った。メールを送る際には、添付する活動報告書にパスワードをかけセキュリティに配慮した。

ペガサス教室活動記録					中学校 2年 S.Y	
月・日	曜日	入室時刻	退室時刻	活 動	備 考	
1	11月4日	火	12:55	15:55	社会（地理）、課題プリントを進める。「直島の地域の取り組み」について調べ、アートと観光の島にした直島の特徴をまとめたプリントにある空欄を埋めていく。「埴港市の地域の取り組み」についてインターネットで調べ、ケケケの鬼太郎をテーマにした町づくりについて調べプリントにまとめる。学校で使用している学習ワークを使い近畿地方のようすについての学習をする。ワークは一度解いてはいるが、繰り返しノートに書き直しをして理解を深める。	
2	11月5日	水	12:50	14:30	数学、学校のワークを使い「図形の調べ方」「角と平行線」のページをパソコン教材や教科書を参考にしながら学習を進める。同じく学習ワークを使って「一次関数」のページのうち、以前にやってわからなかったところを繰り返し解く。「一次関数の利用」のページをパソコン教材のポイントをまとめたプリントを見て振り返りながら進める。	

ペガサス活動報告書

③ 定期テスト等の実施

フリースクールに通っている子どもが適正に学習評価を受けられるよう、生徒が希望をした場合は、学校で行っている定期テストをフリースクールで受けられるよう学校へお願いをした。特に高等学校を目指す子どもにとって評価評定は欠かせないものであるため、中間テストや期末テスト、学力テストなどを学校の別室で受けられる場合はよいが、学校へ入ることすらできない子どもにとってはフリースクールで定期テスト等を受けられることは負担を軽減できる一つの方法である。今年はテストをペガサスでうけることを希望した子どもの在籍校すべてで協力いただけた。

また、小学生の学力テストをペガサスで受けたいとの要望があり、当該校と連絡を取り実施した学校もあった。

④ 学校との直接的な連絡

学校との連絡は基本的にはメールでのやり取りであるが、子どもの様子を直接参観に来てくださった校長先生や担任の先生もいらっしやった。

⑤ 望ましい学校との連携について

1年間「入会時の管理職への連絡と通学定期購入希望者の書類の製作」「日常の活動についての詳細な報告」「定期テストなどのフリースクールでの実施」などを柱に1年間学校との連携を図ってきた。学校へのアンケート調査では、これらの連携に対して「連携がよくされていたと思う」「まあまあよかったと思う」との回答があり、学校との関係は大変良好であったと考えている。また、今後一層の連携を図っていくために、「担任との小方向感の場の設定」することや「フリースクールで行っているテストの内容や点数、作品作りでの成果物」の提出があるとよいとの意見も聞かれた。

学習中のテストの内容や点数、製作物の提示などについては保護者とも意見交換をして積極的に検討を進めたいと考えている。

(2) 保護者との連携

① 入会前の見学

入会にあたって不登校に至った経緯や通院歴、相談歴などを記入できる範囲で見学記録用紙に記入してもらおう。そして、現在の状況などを聞きとり、保護者や当該児童生徒の様子を観察し、入会した場合の対応方針などを確認した。また、希望する場合は体験入会を行った。

② 日常の子どもたちの観察

仕事をしている保護者も多いので、教室に来たことや教室から帰ったことをメールで知らせることで、通えているかどうかの不安がないようにした。

また、日常の子どもの様子を観察し、気になることがある場合は声をかけたり、保護者と連絡を取ったりした。

学習の様子についてもメールを使って連絡をするように心がけた。特に作品作りなどの日常の学習活動とは違う活動を行った際は写真を添付するなどして子どもがよくわかるように心がけた。

③ 面談の実施

入会時に入会后1カ月を目安に希望制で面談を行った。また、夏休み前にも面談を行い、日頃の学習の状況や家での過ごし方などについて話をした。中学3年生については進路相談面接を別に設け希望者に対して行った。

学習面以外での子どもの日頃の様子で心配がある場合には、土曜日、日曜日を含め保護者が面談しやすい時間に相談支援者と面談を行った。

④ 望ましい保護者との連携について

日常の子どもたちの様子を知ることは勿論であるが、保護者が子どもと接する中で不安に感じていることや将来への進路などに対して学習面と心理面ともに、いつでも相談できるような環境を整えることが保護者との信頼関係を築き、望ましい連携につながるものと感じた。